館報
教育記念館
No.74
平成22年3月 発行

第21回「富山県造形教育作品展」

第20回「富山県中学校美術展」

第5回「アイディア・ロボット・フェスタ」チャレンジデー

主な内容

◎教育時評　富山県小学校長会　　会長　水島文明 …… 2
◎わが校の歴史から　★立山町立立山芦峅小学校 …… 3
★射水市立中伏木小学校 …… 4
★入善町立舟見中学校 …… 5
★富山県立海洋高等学校 …… 6
★富山県立二上工業高等学校 …… 7
◎「学ぼう！ふるさと未来」支援事業 実践報告会 …… 8
平成22年度の展示計画、あとがき

発行所／財団法人　富山県ひとづくり財団　富山県教育記念館　〒930-0018 富山市千歳町 1－5－1
TEL(076)444－2000　FAX(076)444－2001　E-mail:toyama@t-hito.or.jp　http://www.t-hito.or.jp
（教育記念館会議室ご利用の場合　☎(076)433－2770）
発行人／富山県教育記念館　館長　齊藤和夫　　印刷所／いおざき印刷株式会社

教育改革と教育論議に思う

富山県小学校長会
会長　水島　文明

小、中学校では新学習指導要領への移行期間が始まり１年が過ぎようとしています。各学校では、この移行期間を新教育課程に移行するための単なる調整措置や猶予の期間ではなく学校改善の好機と捉え、普遍性と魅力のある教育課程の編成と教員の資質向上のために、全力で取り組んでいます。今回の学習指導要領の改訂は、教育基本法等や学校教育法等の改正など、一連の教育改革の学校現場での実現という最終局面であると位置付けられており、これからは、新しい教育を拓いていく責任が学校現場に求められているということをしっかりと自覚しなければならないと思っています。

さて、私がここで述べてみたいのは、最終局面を迎えたという一連の教育改革の内容の是非ではなく、教育改革に伴って行われてきた様々な教育論議の在り方についての思いです。例を挙げてみます。道徳教育の衰退や教師の権威の失墜などを論ずるときに持ち出される「三尺退って師の影を踏まず」という言葉がありますが、この言葉がどこからきたかということについて興味深い話を紹介します。禅の碩学柳田聖山先生が次のようなことを書いておられます。「この言葉は儒教精神によるもので、そう信じている人が多いが、そうではなく、元来は仏教の書である『教誡新学比丘行護律儀』というインドに由来する戒律の書から出ているものであり中国本来のものでない。そして、この言葉は弟子が師の後に随侍して外出するときに、歩きながら大声で笑ってはならぬとか、道ばたに唾をしてはならぬとか、虫を踏み殺さぬように気をつけろというような注意とともに挙げられていて、弟子があまり離れすぎると、師が用事をいいつけるのに不便だし、近づきすぎると威儀を失するので、「七尺をすぎるほど離れてはならず」「足で師の影を踏むほど接近してはならぬ」と規定したものが誤って伝えられたものであり、これを一般化して、師と弟子の関係を言ったものとするのは、もともと行き過ぎなのである。排せらるべきは「三尺退って師の影を踏まず」という言葉や考えでなく、元来もっとも具体的な生活の規定であった一つの事例を、早急に演繹したり帰納したりして、窮屈でやせ細った観念にしてしまった貧乏性そのものである。

私は、建設的な教育論議を妨げているもの一つに「知の貧乏性」があると感じています。

もう一つの例を挙げます。「富山県教育の理解不足」についてです。今年度60周年を迎えた小教研は、戦後の本県初等教育界に再起の気迫と清新の気風をよみがえらせたと賞賛されていますが、よみがえらせたということはそれ以前に活発な時期があったということです。それが大正期とそれ以前です。特に大正時代は近代的子ども観と児童中心主義の教育思想に基づく新教育運動や芸術教育運動が開花したときです。教育県のルーツを淵源に遡ることなく、昨日今日の事象で議論されることも残念に感じています。ちなみに、私の勤務校であるさみさと小学校の前身である泊小学校の大正11年度の沿革誌には、「職員協同一致校風の振興を図り、11年暮頃より県下を風靡したる児童中心主義教育に就いても真摯なる研究をなし、学習上、訓練上改新の曙光をみ睹るを得たり、祝福すべきことなりき」と記述されています。私はこれを誇りに思い日々の励みにしています。

教育記念館の教育記念室に入ると同じ思いが沸き上がってきます。知の貧乏性を排し、先人の偉業と志を受け継いだ新しい富山県の教育論議が始まってほしいと願っています。

わが校の歴史から

歴史と伝統・自然・文化の中で学ぶ

立山町立立山芦峅小学校

＜校区の概要＞

本校区は、富山県南東、常願寺川上流右岸の立山登山の入口に位置する標高380mの緑豊かな山村にある。本校のある芦峅寺は、立山信仰を中心とした山岳宗教の歴史と伝統・自然・文化をもつ村であり、国立公園「立山」の麓にあることから、一年を通して多くの観光客が訪れる。また、同じ山岳ガイドの村として、平成３年にネパール・クムジュンスクールと姉妹校の提携を結び、交流を続けている。昨年上映された映画「剱岳　点の記」の撮影も近くの神社等で行われた。

＜本校の概要＞

本校は全校児童14名の小規模校である。単級１、複式２の３学級編制で、朝活動や給食、体育・音楽などでは、学年の枠を超えて全校で楽しく活動をしている。

中でも豊かな自然を生かした自然体験学習や野外観察、栽培活動は、四季を通して積極的に行っている。保護者や地域住民はたいへん協力的で、郷土料理作りやスキー学習などの指導を通して、子どもたちとふれあいを深めている。

また、子どもたちはマラソンやクロスカントリースキーなどで毎日体力づくりに励み、全員登校183日の新記録を目指してがんばっている。

＜特色ある取り組み＞

１　郷土料理に舌つづみ　－地域住民がひとつになるふれあい活動－

本校では、保護者や地域の人たちと活動する学習がたくさんある。中でも、毎年秋に行っているふれあい活動では大勢の人たちが学校に集まり、「つぼ煮」や「やきつけ」、「かっつる」などの郷土料理をいっしょに作って会食する。５月に採集して冷凍保存しておいたよもぎともち粉を混ぜ合わせ、鉄板で焼いて作る「やきつけ」はとてもおいしい。

このやきつけ作りの先生は、おばあちゃんたちである。子どもたちは、形作りや焼き具合などを教わり、何度もひっくり返して焼き上げる。ランチルームは、よもぎの香りと油の香ばしいにおいに包まれる。おばあちゃんと子どもたちで作ったやきつけの味は、最高である。テーブルにはお母さんたちが作った料理も並び、会話しながら楽しく食べる。

参加者の笑顔があふれ、心も体も温まる楽しい一日である。

２　国際交流de表現力アップ　－姉妹校ネパール・クムジュンスクールとの交流－

今年度は11月に５・６年生がネパールを訪問した。クムジュンスクールはヒマラヤ山脈の麓にあり、大自然を目の当たりにすることができる。子どもたちは訪問した際、外国語活動で学習した民話「ももたろう」や昔の遊びを英語で紹介するなどして交流を深めた。さらに、世界遺産の見学などで、異国の文化や生活習慣を学ぶことができた。

また、１・２・３年生は、学習発表会で英語劇「おむすびころりん」に挑戦した。子どもたちは、外国語講師の指導で難しいせりふをいっしょうけんめい暗記し、大勢の保護者や地域の人たちの前で堂々と発表した。

このように、本校では楽しみながら外国語を学び、コミュニケーション能力や表現力の育成に努めている。

わが校の歴史から

137年の歴史と伝統を大切に

射水市立中伏木小学校

＜校区の概要＞

本校は、富山湾へ流れる庄川と小矢部川に囲まれた場所に位置している。校区内を万葉線が走り、木材会社や金属精錬工場、倉庫会社が建ち並んでいる。

地域ぐるみでの児童育成の活動が盛んで登下校時の子ども見守り隊、始業前の読み聞かせ、放課後の伝承遊びや子供獅子の指導などが活発に行われ、地域の人々の教育力が学校教育の活性化によい影響を与えている。

＜学校の概要＞

明治６年、新湊町川東第２番小学校として、県内で２番目に創立された伝統ある学校である。その後何度も改称を繰り返し、昭和26年に新湊市立中伏木小学校、平成17年に射水市立中伏木小学校となった。

近年児童数の減少が著しく平成19年度から複式学級が導入され、21年度は３・４年生と５・６年生の複式学級２学級を含む４学級となり、一人一人の活躍の場が多い。また、児童はやさしく素直で、学年を越えて仲がよく結びつきも強い。

平成22年３月には、137年の長い歴史に幕を下ろし、新湊小学校と統合する。統合に向けて、４回の交流学習を行った。児童には、本校で学んだことを誇りとし、明るく自信をもって歩んでいってほしいと願っている。

＜特色ある活動＞

① 地域の伝統的文化財「庄西子供獅子」の伝承

地域の伝統芸能である獅子舞を伝承する活動を通して、地域を愛する心を育てるとともに地域の方々や異学年とのかかわりを深めることをねらいとして、全校児童が取り組んでいる。大きな舞台への出演の機会も与えられ、児童の励みとなっている。

② 絶滅危惧種のフジバカマを含む秋の七草の栽培

校区ゆかりのナチュラリストが、庄川河川敷に絶滅危惧種フジバカマが生息していることを知らせてくださったことをきっかけに、平成９年度から中伏木小学校でフジバカマを広めよう、増やそうとする活動が始まった。学校の畑や花壇はもとより、校区の公園にも移植し、地域の花になっている。

③ 50年前の卒業生を招いての卒業式

50年前の卒業生を招待した卒業式を約30年前から行っている。この取り組みを契機に、６年生は当時の卒業生と交流をし、中伏木小学校の卒業生であるという自覚を高めている。

④ ノーチャイムの実施

主体的に行動できる児童の育成を目指してノーチャイムとしている。休み時間を楽しんでいても、自分で時計を見ながら授業や清掃活動に取り組んでいる。

⑤ 地域の清掃活動

月に一度、児童会の呼びかけのもと、ごみを拾いながら登校する「ごみ０作戦」を行っている。また、毎年７月７日には隣接する新湊西部中学校や新湊小学校、地域の方々と一緒に庄川河川敷の清掃を行う「七夕ボランティア」を行っている。

わが校の歴史から

558名から41名へ

入善町立舟見中学校

＜校区の概要＞

黒部川が形成した旧扇状地上の「雲雀野台地（通称）」に位置し、田園と山々に囲まれ、四季折々の美しい自然に恵まれている。

校区は、舟見地区と野中地区とからなる。舟見地区は旧本陣の名残と気風がいまだにうかがわれ、野中地区は純農村的で純朴な気質が残っている。一方、急速な社会の変動は、校区にも大きな影響を与え、両親の共働きや少子高齢化が進むなどの現象が見られ、学校教育に対する期待がより大きくなっている。

学校行事等への保護者や地域住民の参加率は高く、開かれた学校づくりの取り組みにもたいへん協力的である。

＜学校の概要＞

昭和22年４月１日「下新川郡舟見町外二ケ村学校組合立藤保中学校」と呼称、同年４月28日「下新川郡舟見町外二ケ村学校組合立舟見中学校」と改称し、生徒数340名でスタートしている。

昭和24年、山崎地区の組合加入により、「下新川郡舟見町外三ケ村学校組合立舟見中学校」と改称、生徒数は、最大558名となった。

昭和34年、町村合併により朝日町藤塚、下野地区の生徒が去り、「下新川郡入善町外二町学校組合立舟見中学校」と改称。

昭和50年、愛本地区の生徒が宇奈月中学校へ転校し、「舟見中学校組合立舟見中学校」と改称、生徒数は140名となる。

平成13年、組合立から町立になり、現在の名称、「入善町立舟見中学校」となる。

本年度の生徒数は41名である。

＜少人数のよさを生かした活動＞

「総合的な学習の時間」は、１年「ふるさと自慢」、２年「ふるさとに生きる」、３年「明るい未来」をテーマとして取り組み、２月には、保護者や地域の皆さんにも来ていただき、発表会を実施している。全校生徒が３つのグループに分かれ、異学年集団の中で発表・質疑応答を行う。同級生だけではない緊張感、手本となる先輩の発表内容・方法など、少人数の学校ならではの活動である。

＜ＰＴＡとの連携＞

昭和29年から始まった「ＰＴＡスクール」。昭和時代の主な内容は「親子会食、親子ゲーム、部活動懇談会」などであり、親子の絆を深めようというものであった。平成８年からは、保護者が助言者として、１時間の授業を行っている。現在の仕事内容を中心に話していただき、広い視野の必要性、思いやりや勤労の尊さなどについて示唆をいただいている。

県内中学校では唯一の木造校舎である本校は、平成22年３月をもって長い歴史に幕を下ろし、入善町立入善中学校と統合する。

わが校の歴史から

110年を振り返り

富山県立海洋高等学校

本校は1900年（明治33年）当時の滑川町長加藤甚右衛門氏や地元の水産業の育成に熱心な方々のご尽力により、「富山県水産講習所」として創設され、第１回の卒業生は12名であった。県内はもちろん、石川、滋賀、大阪、山口等から優秀な人材が集まり交通機関の事情から学生のほとんどは下宿をし勉学に励んだ。

昭和16年には富山県水産学校、昭和23年には富山県立水産高等学校、平成12年富山県立海洋高等学校と変遷し、歴史と伝統を受け継ぎながら教育内容の充実を図ってきた。

また今後県立学校の再編統合により平成22年度の新入生からは、新「滑川高等学校」へ入学し海洋科１クラスとなる。しかし、本校の歴史と伝統、先輩諸氏の偉大な業績が終わるのではなく、さらに進化発展して受け継がれていくものと思っている。

特色ある伝統行事「日本海開き」

昭和26年より今年で「第59回日本海開き」を実施した。この行事は当時の生徒会が水産健児の心意気を示そうと、生徒の手で特設相撲場を作った。そして高月賀茂神社の太鼓を借りて打ち鳴らし滑川、水橋に宣伝をした。当日は全校生徒で相撲をして汗を流し、その後校庭に勢ぞろいし準備体操をしてから５色の校章入り旗を掲げてグランドを１周した。その後、海岸まで走り一斉に日本海の雪解けの冷たい海に飛び込んだのが始まりである。現在は、午前中男子は相撲、女子はビーチボールで汗を流したのち、正午に打ち上げる花火の合図で一斉に12～13℃の海に飛び込んでいる。

動く教室「練習船・実習船教育」

明治41年に初代練習船として当時の粋を誇る「高志丸」（94トン）が建造されオホーツク海に出漁し実習教育が行われた。本校入り口校門上に設置してある錨は「高志丸」のものである。大正９年には２代目練習船「呉羽丸」が建造され、オホーツク洋上での海水煮沸によるタラバガニの良質船内缶詰製造研究がなされ、試験製造の域を超えて、事業として母船式カニ工船漁業の可能性を世界に立証した。

現在の実習船「雄山丸」は９代目となり運行については富山県総合教育センターで行っているが、体験航海・１ヶ月間の航海実習を体験し、協調性の大切さや忍耐力などを身につけつつ、規則正しい生活のもとでの人間教育にも役立っている。

交際感覚を身に付ける「国際交流」

本校は異文化に接し国際感覚が身に付くよう、韓国の仁川（インチョン）海洋科学高等学校と姉妹校提携を結んだ。（平成14年１月）３年生の１学期に実習船「雄山丸」を利用して外地寄港地活動一環として釜山に入港、その後、陸路ソウル、仁川に移動して現地の人や仁川海洋科学高等学校の生徒と交流を行っている。また韓国からも実習船を利用して富山に入港、その後本校でスポーツ交流や文化交流を行っている。

わが校の歴史から

活きる個性 シャープな感性 ～二工でつづれ 君の青春～

富山県立二上工業高等学校

＜学校の歴史と概要＞

本校は、昭和37年４月、県立高岡工芸高等学校二上分校として、土木科・機械科の２学科を設置して開校した。校舎が未完成なため高岡工芸高校や高岡市立定塚小学校の一部を仮校舎として授業を行うという厳しい状況の中での出発だった。この当時、施設がなくても出来ることはないか、そして二工生の意気込みを示すことができるものとして企画された行事が「創校記念マラソン大会」「弁論大会」であり、これは今も途切れることなく続き、平成21年度で第46回を迎えた。

健康、自信、責任の教育方針、また本校のキャッチフレーズである「活きる個性 シャープな感性～二工でつづれ 君の青春～」のもと、技術革新の進展に対応できるよう最新の施設・設備の充実を図ると共に、時代の要請と進展に応えることが出来る工業技術者の育成に務めてきた。しかし、社会の変化や産業構造の変化、技術革新に伴って、創校以来幾多の学科改編があり、現在機械工学科、環境科学科（環境土木コース、環境化学コース）の２学科となった。資格の取得を推進し、環境マネージメントに配慮できる存在感のある工業技術者の育成を目指している。

＜特色ある活動＞

○　新聞部は、全国高校新聞年間紙面審査賞入賞、県高校新聞コンクール優秀賞を受賞し、ほぼ毎年全国大会へ出場している。

○　吹奏楽部は、定期演奏会に万葉小学校金管クラブ、志貴野中学校吹奏楽部の皆さんも賛助出演していただいたり、本校からも万葉小学校へ演奏に出かけ、相互交流を続けている。また、高岡養護学校とのクリスマスコンサート、地区の老人施設での訪問演奏会、高岡地区高校間との合同演奏など幅広く活動している。

○　県高校ロボット競技大会に出場し、全国大会にも数回出場している。

○　全国工業高校長協会の全国製図コンクール機械系部門の最優秀特別賞を３年連続受賞

○　平成14年に環境マネジメントシステム国際規格ISO14001の認証を取得し、平成20年からは、自主的に環境教育を管理することにした。

○　毎年、環境に関する分野について広く理解を深め、環境保全に対する意識を高めるため、環境教育講演会を実施している。平成３年より二上山クリーン作戦を実施している。

＜個々に応じた進路指導＞

リーマン・ショック以降、急激に不景気となり本校への求人件数も昨年に比較し半減した。しかし、就職希望者全ての内定を12月までに得ることができた。１学年２クラスの小規模校の特徴を生かし、教員と生徒が互いの顔が見えるきめ細かな指導を心掛けている。７月上旬からの会社訪問、下旬からの基礎学力養成講座、小論文対策、８月下旬からの面接対策など先手先手の取り組みを全職員で実施している。

砺波市立砺波東部小学校

地域(砺波市)の自然環境や社会環境について、自ら体験・調査して、地域のよさを見つけ、伝えることができる子どもを育てる。

「学ぼう!ふるさと未来」支援事業 報告会

平成22年2月16日(火)
富山県教育記念館

◎ 学校ぐるみで「ふるさと学習」

◎ 総合的に「ふるさと学習」に取り組んでいる学校やこれから取り組もうとしている学校に対して助成を行います。

※申し込みは
(財)富山県ひとづくり財団へ

南砺市立平小学校

平地域の民謡を通して、地域のよさに触れ、郷土を大切にする子どもの育成
～平の民謡を受け継ごう～

小矢部市立大谷小学校

仲間とかかわりながら地域に働きかけ、地域のよさに気づき、ふるさとを大切にしていこうとする子どもの育成を目指して

立山町立新瀬戸小学校

地域の伝統文化を生かす指導の在り方

立山町立釜ヶ渕小学校

地域力を生かす「総合的な学習の時間」のあり方

平成21年度 後半恒例展 (1階 多目的ギャラリー)

※その他の恒例展は表紙に掲載

教職員退職厚生部富山支部会員作品展

特別支援学校・みんながんばってます作品展

富山大学学生卒業記念書展

平成22年度の展示計画

◆特別展「校名・校章・校歌と教育への期待」	4月24日(土)～6月6日(日)
◆第1回「児童・生徒によるものづくり展」※新	6月12日(土)～7月11日(日)
◆第8回「マセマティカル・ワールド展」	7月25日(日)～9月5日(日)
◆第7回「子どもの目・自然不思議発見写真展」	9月12日(日)～10月10日(日)
◆第26回「厚生会旧友富山支部会員作品展」	10月15日(金)～10月24日(日)
◆第28回「特別支援学校・みんながんばってます作品展」	10月30日(土)～11月14日(日)
◆第6回「アイディア・ロボット・フェスタ」	12月11日(土)～1月23日(日)
チャレンジデー	1月15日(土)、16日(日)
◆第21回「富山県中学校美術展」	2月5日(土)～2月20日(日)
◆「富山大学卒業記念書展」	2月26日(土)～3月4日(金)
◆第4回「富山県版造形教育作品展・秀作回顧展」	3月12日(土)～4月10日(日)

あ・と・が・き

今回の館報も、統廃合によって消えゆく学校を掲載することになってしまいました。複雑な心境での発行となりました。